静岡県の就労支援B型の工賃問題解決に向けて

多くの人にこの問題について知ってもらうためには

高島 愛歩(たかしま まなほ)
沼津市立沼津高等学校 2年

静岡県の就労支援B型の工賃問題解決に向けて

多くの人にこの問題について知ってもらうためには

高島 愛歩

活動概要

活動の内容

学校の先生や、福祉施設で働く方と相談したり、図書館へ行って福祉について調べたりして、障害者福祉について学べる本を制作しました。また、その本を、沼津市立沼津高等学校中等部、沼津市立愛鷹小学校、居住地域(沼津市)内の18か所の地区センター(図書室)に制作した本を置いてもらいました。

活動の特徴(新規性・発展性)

特徴は、問題を直接解決するのではなく、問題解決のための第一歩であるという点です。
自分では解決できない問題だと諦め、他の課題にすることは簡単ですが、その中でできることはないかと考え、解決するために必要な土台を作り、現状を少しでも変えていくことは、誰かが行わなければならないことです。直接的な解決にならない分、地味に見えますが、大切なことだと思い、この活動に取り組みました。

活動の成果

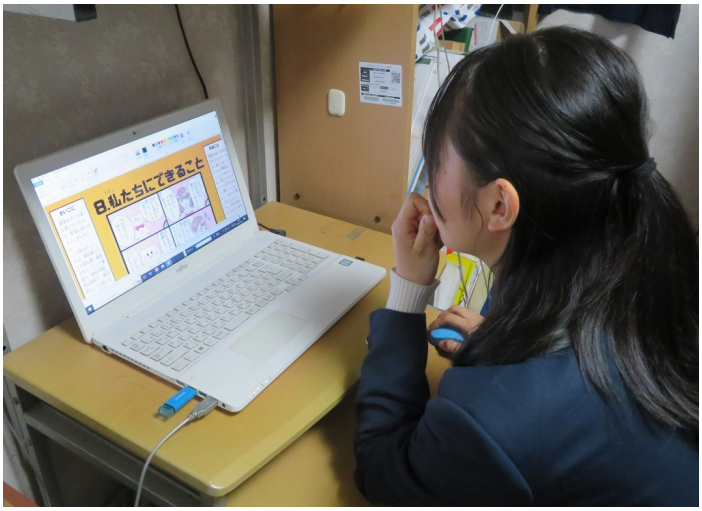
本を制作し、様々な場所に置いてもらうことで、私が一人ひとり説明していくことよりも余程多くの、様々な人に、障害福祉について知ってもらうことができました。
私が本を作ったことにより、就労支援B型の工賃が増える等のことはありませんでしたが、この問題や現状について多くの人に知ってもらう機会をつくれたということは、様々な人にこの障害福祉の問題を、問題として捉えてもらうことに繋がったと思います。

課題の設定と意図

私は、自身が住んでいる静岡県の就労支援B型の賃金の低さをオリエンテーション合宿で知り、課題として設定しました。
就労支援B型の平均工賃は低く、中でも静岡県は特に低いです。厚生労働省の、「令和2年度工賃の実績について」によると、全国の令和2年度平均工賃が月額15776円なのに対し、静岡県は15529円と平均を下回っています、
オリエンテーション合宿で、福祉施設で働く方から、「障害を持つ方は、本当は施設に入りたくない」というお話を聞きました。
しかし、今の賃金では、自分が好きなように生きることはおろか、普通の生活ですら難しいです。
実践活動を行うなかで読んだ本で、忘れられない言葉があります。障害を持つ子どもをもった母親の「子どもを残して先に死ぬことはできない。一日でも長く生きたい」という言葉です。
人間の寿命を考えると、普通は親が子より長生きすることは難しいことです。しかし、それでも生きなければならないと思うような人がたくさんいるというのは、大きな課題であり、解決しなければならないものだと思いました。だから、私はこの問題を課題に設定しました。

課題解決のための仮説と計画

静岡県の就労支援B型の賃金問題について、完全に解決することは、私一人では勿論のこと、周りの大人の力を借りても不可能です。だから、まずはこの問題について多くの人に知ってもらうおうと考えました。
私自身、オリエンテーション合宿に参加し、話を聞くまで、この問題について全く知りませんでした。同じように、この問題について知らない人はとてもたくさんいると思います。それどころか、「障がいを持つ人は支援があるから、あまり働かなくても不自由ない生活を送っているだろう」と考える人がいても不思議ではありませんし、実際にそう考える人がいるのが現状です。
そこで、遠回りにはみえますが、この問題を解決するためには世間一般にこの問題を問題として捉えてもらうことこそが、一番の近道だと思いました。たくさんの人が「知る」ということは、目には見えないものの、大きな力になると考えたためです。
では、多くの人に知ってもらうためには何をすればいいだろうと考えたとき、自分が絵を描くことが得意なことを活かし、福祉について学べる本を作って配布することを思いつきました。
しかし、福祉についての本は、ただ置いてあっても、堅苦しかったり難しそうだったりして読んでもらいにくいと思ったので、小学生でも読みやすくて、手にとってもらいやすそうな本にしようと決めました。そのために、四コマ漫画を描いたり、鮮やかな色を使って堅苦しさをなくしたりしようと思いました。また、小学校にも配布したいと考えていたので、休み時間などの短い時間でも気軽に読むことができるように、ページ数もあまり長くしすぎないように構成を練りました。



活動で工夫できたこと

オリエンテーション合宿で、フィールドワークの一環として、カフェPAZLに訪れたとき、店主の方から、「自分からこのカフェが福祉施設と関係があることは言いません。聞かれたときだけ答えるようにしています。自分から話すよりも、相手が興味を持って尋ねたときに話すほうが、より相手に伝えたいことを伝えることができるからです」と、教えてくださり、それを活かそうと思いながら計画をたてました。具体的には、本を開くとテーマごとに中心に大きく四コマ漫画がみえるようにしました。自分が絵を描くことが好きだったのもありますが、私が小学生のころ、配られた冊子の漫画部分は必ず読んだり、新聞も、四コマ漫画だけは読む人が多かったりしたことを思い出し、一番目立つ位置に漫画を設置すれば、少なくとも多くの人が見てくれるのではと考えたからです。漫画だけでも読んでもらうことが出来れば、なんとなくでも障害福祉について知ってもらうことができます。また、漫画を読んで興味を持ってくれた人のために、興味を持ってから直ぐにそのことについて知ることができるような工夫を考えようと思いました。興味を持ってから、調べるまでに時間が空くとどうしても忘れてしまうことがあります。また、調べたとしても、障害福祉についてのサイトなどは難しいものが多く、折角持った興味をなくしてしまうかもしれません。興味を持ってから知るまでのハードルを低くするために、漫画の左右に細かい説明を載せました。このとき、できるだけ簡単な言葉で、理解しやすいようにまとめることを意識しました。
他にも、分かりやすくするために、漫画のキャラクターは三人で、見た目も三人とも全く異なるものにしたり、読む順番に番号をつけ、漫画が苦手な人にも読みやすいものにしました。また、文字は小学生でも読みやすいサイズを調べ設定しました。

活動で得た学び・気づき

今回の活動で、視野を広く持つことが大切だと学びました。
オリエンテーション合宿では、毎日課題を考え、それについて掘り下げ、解決策を考えてプレゼンテーションを行いました。その中で、最終日に自分たちの住む地域について考えました。担当した地域は、アクセスがよく、様々な観光名所があり、多くの人が足を運んでくるのですが、「宿泊する観光客が少ない」という問題があがりました。そして、それを課題として取り上げ、皆でしばらく考えたり話し合ったりしましたが、どうしてもホテルや旅館を作るなどのやや非現実的なアイデアしかでてこなく、グループの皆で頭を抱えていました。
結局、発表をしたものは「対象別の観光マップづくり」というものでした。学生が放課後でも遊びに行けるような歩きコースや、低予算でも遊べるコース、写真映えがするコースなどをマップにするというものです。
しかし、これには、多くの発表を聞いたひとが「宿泊する観光客が少ない」という問題と全く関係のないものでは、と思ったことでしょう。しかし、大元のテーマは変えていません。では、なぜ最終的にこのような案にたどり着いたのかといいますと、「宿泊する観光客が少ない」という問題を、「気軽に遊びいくことのできるまち」という長所と捉え直したからです。そうして問題を長所として考えてみたところ、はじめとは打って変わって、それを活かした案がたくさん出てきました。そして観光マップを作るという案があがったのですが、地域を栄えさせるために、観光マップを作るというのはよくある案であり、本当に問題解決につながるのか、ありきたりではないかという言葉も出てきました。
しかし、そこでも面白い意見があがりました。観光マップは観光マップでも、対象を絞り、本当に需要のあるマップを作ってみないかというものです。観光マップというと、その地域の観光名所やお店をまとめたもので、基本的に一種類しか作りません。けれども、対象を絞ったこのマップは対象ごとにいくつも作ります。そうすることで、本当に役に立つマップが作れると考えたからです。また、様々なコースを作ることで、何度も訪れてもらうという算段です。これは、気軽に遊びにこれる地域ならではのものです。
また、オリエンテーション合宿には様々な人が集まりました。年下の人も、中学生も、県外の人までいました。私の所属したグループも、様々な学校や学年の人が集まっていました。そのため、自分では思いつかないような案を聞いたり、発表のなかで質問をされたりし、凄く面白かったです。
それらの経験から、私は視野を広くもつことの大切さを学ぶことができました。
またそれは実践活動にも活かすことができたと思います。

今後の展望・新たな取組み

今回の体験をふまえ、私は様々な人がいることを理解し、他人事だと思わず、色々なことに興味を持って過ごそうと思いました。
私は、オリエンテーション合宿に参加して話を聞くまで、障害福祉の現状を全く知りませんでした。「障害を持つ方は本当は施設にはいりたくない」ということも、就労支援B型の工賃が低くそれがかなわないということも、施設の方に聞いたときは本当に驚きました。
カフェPAZLに行くまで、フェアトレードについて知ろうとも思いませんでした。フェアトレードに関しては、学校の授業で取り扱い、さらに深く調べるという課題が出ていたにもかかわらず、適当なサイトからコピーペーストして、適当にまとめて、適当に発表していました。今回話を聞いて、ようやくこの問題の重大さに気づきました。
他のグループの発表を聞いて、地元の名産や産業について、自分が全く知らなかったことに気づかされました。
実践活動を行うために本を読んで、設定した課題以外の問題や、さまざまな制度について知りました。
活動を行う中で、自分の知識の少なさに驚き、それを恥じました。曲がりなりにも17年生き、いろいろなテレビや本を読んだり、学校で勉強をしたりしてきましたが、まだまだ知らないものばかりです。多様性を重んじるようになったり、国際化が進んだりする中で、よりさまざまなことを知ることが私たちに求められています。また、知らないことは、相手や誰かを傷つけることにつながることもあります。
そういうことがないように、色々なことに興味をもっていこうと思いました。
また、正しく認識することも大切です。オリエンテーション合宿のフィールドワークで、就労支援B型の賃金の低さや現状について話を聞いているなかで、「障害をもつ人は、支援があるから不自由なく暮らせる」と勘違いしている人もいると聞きました。現状を知っている人ならありえないと思うでしょうが、それまでこの現状を知らなかった私は、こう思ってしまう人がいても仕方がないと思いました。しかし、そのなんとなくは、最悪の場合偏見として形を持ってしまうことがあるので、きちんと認識を改めることはしなければなりません。
また、よく調べずに与えられた情報を鵜のみにしてしまうことも同様です。インターネットが発展した今、情報自体は簡単に手に入れることができます。しかし、その中には誤った情報も紛れています。しかし、騙された側であってもやはり誰かを傷つけてしまうことにつながってしまうことがあります。
これらのことから、私は、私は様々な人がいることを理解し、他人事だと思わず、色々なことに興味を持つようにします。また、それと同時に正しい情報を正しく認識することを心において、これからを過ごしていこうと思いました。

1. 地域探究アワードエントリー情報

エントリー希望	有	エントリー単位	個人	ブロック	関東・甲信越
グループメンバー	氏名①			氏名③	
	氏名②			氏名④	

2. オリエンテーション合宿及び実践活動の基本情報

合宿実施先	国立中央青少年交流の家	修了日	2022/7/18	カリキュラムのタイプ	A
フィールドワークの内容	株式会社ノーズゲイトの岡田さんと、社会福祉法人婦人の園の高橋さんから、障害福祉の現状と課題について聞いたり、オープンハウスの出店の計画を立てました。また、カフェPAZLの方からお話を聞きました。				
実践活動期間	2022/7/28 ～ 2022/11/25				
活動のタイプ	新たな活動				

協力者		主な協力者	協力内容
	所属	沼津市立沼津高等学校	実践活動時の助言
	氏名	勝間田幸江	
	所属	駿東ドリームビレッジ(介護福祉事業所)	実践活動時の助言
	氏名	高島菜穂子	
	所属		
	氏名		
協力者総数		2 名	

3. 実践活動の記録

(1)総活動日数　　全 23 日

事前:準備・打合せ	3 日	本番:メインの活動	20 日	事後:ふりかえり・報告	0 日

(2)活動成果の発信等

媒体	方法	回数	概要・備考
その他	自ら発信	1回	沼津市立沼津高等学校中等部・愛鷹小学校に制作した本を置いてもらう
その他	自ら発信	1回	居住地域(沼津市)内の18か所の地区センター(図書室)に制作した本を置いてもらう

(3)主な活動記録

活動日時	区分	活動場所	活動内容
7/28 ～ 7/28	①事前学習・打合せ等	沼津市立沼津高等学校	本の置く場所について相談、沼津市立沼津高等学校中等部に本を置くアドバイスを貰った
8/10 ～ 8/10	①事前学習・打合せ等	駿東ドリームビレッジ(介護福祉事業所)	本の制作にあたっての相談、福祉について教えて貰う。
8/20 ～ 9/9	②実践活動本番	自宅	福祉についての本の制作。11月25日までにいくつかの施設に本の設置依頼。